

ICCB 2025 理念表明:

国際保全生物学会議 (ICCB) 2025 は、伝統的知識の持ち主や研究者、実務者、学生を含めた生物多様性保全の専門家を世界中から集め、この分野を活性化することを目的としています。私たちの理念は、生物多様性保全の課題に取り組み、保全の科学と実践を推進するという共通の目的の下に、多様な文化や背景を持つ人々がそれぞれの見識や知識、そして研究成果を共有できるように、安全で包括的な場を提供することにあります。本大会はオーストラリアのブリスベン、またの名はミアンジン (Meanjin) (この土地の伝統的所有者 2 グループの一つであるタラバル (Turrbal) の人々による名前。もう一つの伝統的所有者はヤガラ (Jagera) の人々。) で行われます。ブリスベン/ミアンジンは世界の中でも最も生物多様性が豊かな都市のひとつとして知られています。Quandamooka のアーティスト、Amanda Diamond さん (Yura Bunji Art) によってデザインされた本大会のロゴは、ブリスベン川近郊の人々、モートン湾にある 3 つの島々、そして会場近辺で見られる美しい在来種のいくつかを表現することで、ICCB2025 の理念を反映しています。

大会開催地の選定においては、包括性の機会を重視しました。優先された重要な条件の一つは、あらゆる国籍の人々、また LGBTQIA+ コミュニティの人々にとってホスピタリティと安全な環境を提供できることにあります。ブリスベン市は多様なコミュニティを尊重し、様々な文化的背景を持つ人々を支援するよう努めています。ブリスベン/ミアンジンは多くの文化が共存し、治安が良く、親しみやすい都市として知られています。また重要なこととして、ブリスベン市議会が LGBTQIA+ コミュニティの一員である全ての住民と訪問者を普遍的に受け入れるために、数多くの公約を掲げていることにあります。このコミュニティに対する公約と祝福に関しては、[こちら](#)をご覧ください。

ICCB2025 では英語が共通言語として用いられることとなります。しかし、英語以外の多くの言語でも生物多様性保全が実践され、情報がやり取りされていることを踏まえ、本大会にはあらゆる言語的背景を持つ方々に是非参加していただきたいと考えています。特に第一言語が英語でない人の場合、国際学会の参加と聞くと気後れしてしまうかもしれません。そこで ICCB2025 では、参加者に対する言葉の壁を最小限にすることに注力しています。現在、多様な言語的背景をもつ参加者をどのようにサポートすることができるか検討中で、多様なコミュニティに対する私たちのコミットメントを共有し、紹介できることを楽しみにしています。



